



JAC北九だより

No. 60 (平成24年 第2号)

公益社団法人 日本山岳会 北九州支部

Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行：公益社団法人 日本山岳会北九州支部

支部長 伊藤 久次郎

事務局：福岡市早良区昭代3-9-5-502

山田 武史 方

TEL-FAX: 自宅 092-844-3563

携帯 090-6422-5662

編集人：伊藤久次郎・竹本正幸

印刷：山口県山口市水の上町2-25

内藤製本所

日本山岳会が公益認定されました

本会は、いわゆる公益法人改革に関する法律に基づいて、昨年10月24日に公益法人としての認定申請を内閣総理大臣に行いました。内閣府公益認定等委員会に諮問が行われ、4カ月の審査を経て3月7日に公益認定基準に適合するとの答申が行われました。

これにより、4月1日から本会は「公益社団法人日本山岳会」として新たに発足することが決定いたしました。

日本山岳会だより[077号]

2012年度 第13回通常総会のお知らせ

記念講演 当支部 武永計介会員

「南米最高峰 アコンカグア(6960m)に親子で挑戦」

- と き 平成24年4月28日(土)
- と ころ ホテルニュータガワ(小倉)
TEL 093-521-7000
北九州市小倉北区古船場町3-46
「モノレール旦過駅」下車～徒歩(約1分)
- 1. 受 付 午後2時から
- 2. 総 会 午後3時00分～午後4時00分
- 3. 記念講演 午後4時00分～午後5時30分
講師 武 永 計 介
演題 「アコンカグアに親子で挑戦」
- 4. 懇親会 午後6時～午後8時
- 5. 会 費 1人 5,000円 (懇親会費)
- 6. 締め切り 出欠の返事は、案内状同封のハガキで
4月20日(金)まで必着のこと。
- 7. 問い合わせ
事務局 山田武史まで
(TEL/FAX 092-844-3563)



右側 武永計介会員

武永親子は、昨年12月15日 ベースキャンプ入り、31日にはC1を設営、1月1日頂上を目指したが、悪天候のため登頂断念した。



「日本山岳会31番目の支部誕生」 四国支部発会式に出席

伊藤久次郎

本年1月はじめ、日本山岳会「四国支部」設立総会のご案内を受け、2月12日(日)北九州支部代表として出席した。

会場は、四国徳島県徳島市の徳島駅前にそびえる「眉山(びざん・277 ㍎)」山頂のいっかくにある「かんぽの宿 徳島」で、大変見晴らしがよく、夜は夜景が美しいところ。

当日早朝、自宅(田川市)付近のカラスがまだ起きぬうちに出発、JR を利用して田川後藤寺～小倉～岡山～四国高松～徳島へと昼の12時半ごろ会場に着いた。

受付を済ませ、13 時からの記念講演(写真家・白川義員「四国の山から世界百名山」)を聴いた。白川義員氏は、日本山岳会会員で愛媛県伊予三島市の出身。著書に「世界百名山」「中国大陸」「南極大陸」などがあり、世界的に有名な方である。

スライドで写された真っ赤に染まったエベレストは、飛行機から撮ったもので、この1枚に6年間かかったとか。他に素晴らしい写真を見せていただき、またその解説が面白かったようだ。ようだというのは、後ろで聴いていたので、マイクの音が小さくよく聞き取れなかったから。そのため、隣近所ではボソボソ話ささやきが多かった。

時間いっぱい講演が終わり、午後3時半から設立総会が始まった。これは四国支部会員のほか尾上会長と来賓数人が出席、私もその席に座ることになった。

司会進行は四国支部の瀧田喜子さん、開会挨拶は発起人代表の国沢鎮雄さん。続いて来賓代表あいさつで尾上昇会長があいさつのあと、各来賓の紹介があり、議事に進んだ。



四国支部設立総会(2月12日)

議長選出のあと「規約案の承認」「役員案選出」「事業計画案」「予算案」と次々承認され、議事だけで15分で終わった。まことにスピーディで気持ちがいいものであった。そして最後に、顧問に特別顧問を設け、写真家の白川義員氏を本日特別顧問とした、と締めくくった。

続いて16時半から、夕食懇親会に入った。

司会は事務局長の小林京子さん、久米久夫支部長の開会の辞に続いて新四国支部長尾野益大氏から「四国支部は会員33人、31番目の支部として発足した。そして平均年齢は全国で一番若いし、支部長も一番若く、全国で最年少である。一番の末っ子支部であるが、全国の兄、姉支部を見習っていきいたい」とあいさつした。

そのあと、四国支部設立に一番功労があった、関西支部の重廣恒夫支部長の来賓あいさつがあり、来賓紹介、白石裕会員の関西支部長への謝辞、山崎隆史会員の乾杯に続いて会食と交流が始まった。会食が始まってすぐ、舞台にエレクトーンが運び込まれ、乾杯の歌が始まり、とたんにソプラノ歌手による歌が出てきた。すごい声量と美しい声にみな圧倒され、山の歌(坊ガツル讃歌)や名曲に聴き惚れた。

続いて出てきたのは、徳島名物の「阿波踊り」で、40人位の一団がリズムにのって出てきた。小学生から大人までの一団は法被に鉢巻きの姿で踊りながら、まさに南米のカーニバルのようであった。そして、見物の我等の中から「アンコール！」と声をかけると、踊りのリーダーは、アンコールはあなた方ですと言われ、そこから阿波踊りの指導となった。ひととおりコツを教わり、リズムに乗って実演、全員楽しく踊り「病みつきになりそうだ」との感想であった。最後は、清岡謙一会員の閉会の辞と万歳三唱で、記念式典は終了した。



40人の阿波踊り(2月12日)

「英彦山の環境・トイレを考える連絡協議会」役員決まる

山のトイレに関する情報交換会は、今まで数回開催されてきたが本年1月20日、添田町役場の会議室で本年初めての情報交換会(第6回目)が開催された。

交換会には山の会、野鳥の会、植物の会や地元の関係団体の長など約22人が出席した。今回は、新しく「英彦山の環境・トイレを考える連絡協議会」(平成23年12月9日設立)の役員(一覧表参照)が発表され、会長に決まった荒木辰彦氏から、「これから英彦山にトイレができるよう皆さんと一緒に頑張っていきたい」と決意を述べられた。

今回の情報交換会では、町や英彦山神宮に提出を予定している「請願・陳情書」に添付する「賛同団体の名簿」を募集することになった。これは英彦山のトイレ建設に賛同する各団体の代表者から署名入りの賛同書(賛同団体登録のお願い)を得るもの。

さらに、トイレが建設された場合の管理者(団体)に、「筑豊山の会」が決まり、前会長の太田徹哉氏は「福智山に続いて、英彦山もトイレ管理を引き受けることにした。ただ、筑豊山の会だけでは荷が重いので、あと一つ二つばかりの団体がほしい」と語った。このことから、幾つかの団体から、お手伝い程度の支援申し出があった。日本山岳会北九州支部としても、支部会員が英彦山に登った場合は、トイレトペーパーの交換や清掃などに務めるようにしたい、と意見を述べた。

おしまいに、緒方裕子添田町議員から「ある雑談の中で聞いた話なので事実は分からないが、現町長は、いずれ英彦山を世界遺産にしたい、と考えているようだ。富士山もそうであったが、このトイレ問題が一番のネックになると思う。この話が順調に進むことを期待している」と締めくくった。(文 伊藤久次郎)

役員一覧表

会 長	荒木 辰彦	(福岡県勤労者山岳連盟会長)
副 会 長	杉本 幸男	(英彦山・行政区長)
副 会 長	太田 徹哉	(筑豊山の会顧問、前会長)
副 会 長	五十嵐 賢	(日本山岳会福岡支部会員、登山ガイドブックの著者)
副 会 長	太田 勝	(九州登山情報センター、山のトイレ、環境を考える福岡協議会事務局長)
事務局長	林田 正道	(登山ガイドブックの著者)
事 務 局	田川郡川崎町 荒木辰彦方	
問合せ先	福岡市博多区 太田 勝	TEL:090-9607-7556

霊峰「英彦山」に 氷瀑出現！

—人気熱く案内板の設置作業進む—

福岡県添田町の英彦山中岳(1188[㍎])の山頂近くにある「四王寺滝」(しおうじのたき)が、冬山愛好家の間で静かなブームとなっている。標高約980メートルの環境で高さ約30[㍎]の滝が凍りつき、無数のつららが神秘的な光景を見せてくれるからで、ここ1年で人気上昇し、町への問い合わせも急増。町は目印や案内板を取り付けるなど対応に乗り出している。以前から一部の登山者仲間でも知られた存在だった。人気のきっかけは、地元の英彦山に詳しい地元の登山家らがブログに写真を掲載し、昨年の冬からじわりと人気が出始めた四王寺滝。ブログ掲載後、添田町役場には問い合わせが殺到。このた

め、町は滝へのルートを示す登山マップを作製。さらに案内板を設置し、ルートには目印のテープを樹木に付けた。そしてこのことが新聞で報道され、さらに人気が高まった。九州地方など各地に厳しい冷え込みをも



たらした寒波が緩んだ立春の2月4日、四王寺滝に私も足を運んだ。当日は穏やかな天気、英彦山に着いて驚いた。登山者のほとんどが山頂に登るのではなく、人気の四王寺滝を目差していたからである。現地の滝までは、登山口からアイゼンなど装着して約2時間の道のり。

当日も約100人くらいの登山客が訪れ、「天然のシャンデリア」を楽しむ人たちで「まるで銀座のようにぎわい」であった。これをきっかけに、霊峰英彦山に少しでも活気が戻ることを期待している。

(福岡県 西日本新聞参考)

—四王寺の滝の由来—

地元の専門家や添田町に聞いた話によると、大正15年に添田町教育会が発行した小冊子に「四王寺の跡」というものがあり、その説明で「往時、四王寺のあったところで、薬師如来を安置してあった寺である。此の奥に飛泉あり、高さ百尺、四王寺瀑の名がある。」との記述があり、さらに英彦山の観光資源として一覧表に「四王寺滝」の名がある。

当時英彦山には10の谷があり、玉屋神社や鬼杉がある谷を玉屋谷といい、滝がある一帯を四王寺谷といった。

四王寺谷の一帯は、山中第一の楓の名所であり、新緑と紅葉のころが見ごろである。また一帯は、平安時代の瓦などが出土することがあり、英彦山の歴史が始まったところかもしれないという。

四王寺の滝絵図 (昭和初期に描かれた絵図)

左上が南岳、その右下が屏風岩、滝はその下に見事な白糸の滝みたいに描かれております。



現在、英彦山修験道館に保管されている、昭和初期に描かれた英彦山の鳥瞰図にも、立派な四王寺の滝が描き込まれている。この滝は度重なる台風の影響で、白糸の滝のような流れが見られなくなり、冬場に氷瀑として見られるようになったそうです。

(伊藤久次郎)

第3回 山岳技術専科に参加して

「実技は反復練習で会得を！」

北九389 森本 信子



(皿倉山頂付近で、やる気満々の受講生)

1月21日(土)今日は暦の上では大寒。うす曇りの空模様です。

9時に帆柱ケーブル山麓駅前の駐車場に園川講師と男性4人、女性6人の受講者が集合。

今日のテーマ「雪上救助技術の実践」についてのお話があり、早速ピッケルを使用しない時は、ザックと背中の中に挟んで背負う方法を教わりました。ピッケルを習った方法で処置し、煌彩の森コースで皿倉平、山頂へ。

皿倉山頂の北東の斜面でハーネスを装着し、「コンティニュアス」「スターカット」技法についてお手本を見せての説明がありました。

実技の実習は3班に分かれ、一本のザイルに救助する人(A)と救助される人(B)を結んで、ザイルとカラビナの摩擦で制動をかけて、滑落する人をいかに早く止めることができるか? 初めは(B)の滑落する衝撃に引きずられて一緒に転びました。(A)と(B)の役割を入れ替わり、何度も繰り返し練習。(A)の身

体の向き、手に持ったザイルを離すタイミング、エイト環に通したザイルの引く角度、脚の踏ん張りなど少しずつ理解できるようになりました。そしてどうにか(B)の滑落を防止できるようになりましたが、今日の講習場所は雪がありませんでした。果たして雪の斜面で素早く滑落を防止できるだろうか?

実技は反復練習で体得することが重要と思われました。

園川講師、覚えの悪い生徒で申し訳ありませんが、またよろしく願います

◆参加者(10人)

講師:園川陽造氏

伊藤久次郎、原広美、西村信子、高島拓生、大木康子、福田陽子、竹本正幸、竹本加代子、森本信子
縄手修

月例山行 2011年10月25日(火) 曇り 「花乱の滝」から金山へ

No. 14916 赤瀬 榮吉



(金山山頂にて)

金山は背振山地の主峰・脊振山の北西にそびえる端正な山です。今回は、少数の山登りとなりました。

9時前に「湧水千石の郷」駐車場に集合、榊CLより地図の配布及び登山ルートの説明を受けた後下山口(坊主ヶ滝登山口)に近い駐車場へ移動、榊さんの車に相乗りで花乱の滝登山口へ向いました。

まず、登山口のすぐ右下にある水量豊かな「花乱の滝」を觀賞しました。榊CLは、膝の故障でドクターストップがかかり登山をあきらめ、ここで別れることになりました。9時14分花乱の滝登山口「道標No.29」

を出発、舗装された林道を10数分歩き山田さんに先頭をお願いし4人で登山道に入りました。

緩やかな雑木林を進みしばらくすると沢に出会い、これから沢を徒渉しながら登っていくと70分ほどで直登ルート分岐点「道標No.34」(右はアゴ坂峠へ)に着きました。ここから金山山頂まで50分急な登りの始まりでしたが、予定より早く11時17分金山山頂に着きました。山頂に着き数分後、一匹の小犬が現れ、誰か登ってくるなと思って、ビックリ・・・縄手さん(No.北九447)でした。山頂は樹林に囲まれています、佐賀県側は低木で、展望できました。

山頂で早めの昼食、犬は一日2食(昼ナシ)のため伏せの姿勢でじっと待っていました。なんと利口な犬だと思った。犬は雄犬の狩猟犬で名は「ルート」よく懐く犬でした。

11時53分、縄手さんと犬一匹が加わり下山開始。下山は急坂を下るとすぐ登ってきた二股「道標No.28」を直進、坊主ヶ滝ルートを下りました。12時49分坊主ヶ滝「道標No.25」を右に折れ(5/18調査登山では、道標を直進登山口まで下り坊主ヶ滝へ登り返す)、急坂をしばらく下ると滝に降りついた。一瞬坊主ヶ滝? と思ったが坊主ヶ滝の上流の滝でした。

それから沢沿いの斜面を降りる途中、色よい大粒のアケビを山田さんが見つけ賞味。若いころよく近くの山に採りに行ったことを思い出しながら下っていると、目的の坊主ヶ滝に着きました。滝は、かつての修行の場で、高さ15m・幅3m、勢いよく滝つぼへ落ちていました。

この滝と清流は坊主川を下って室見川へそそがれ、福岡市民の大切な飲料水となっているとの案内板がありました。10分ほど滝を眺めたあと5分ほどで、坊主ヶ滝側登山口に13時32分無事下山しました。

下山後は、近くの「湧水 千石の郷」の展望風呂に入浴、油山(福

岡市民の憩いの山)や福岡市街地を眺めながら疲れをいやし解散しました。

—行動時間 4時間20分—

—終わりに—

金山は、道標(番号付)がポイントごとにあり、分かりやすくよく整備された山でした。また、花乱の滝コースは沢に沿った山道で、来年は夏に清涼を求め登って見たいと

思いました。

◆参加者 (5人+ワン)

山田武史、竹本正幸、竹本加代子、赤瀬榮吉、縄手修と犬一匹

月例山行 1月24日(火)

鶴見岳「雪山と霧氷を楽しむ」に参加して

北九445 井上 薫



平成24年1月25日門司駅を出発したマイクロバスで‘豊前おこしかけ道の駅’より同乗、21人と思ったより多い参加だ。宇佐より高速で鶴見岳ロープウエー駐車場へ。昨夜の雪が少し残っているなか、集合写真を撮り各々軽めのストレッチをした後SLの大内さんを先頭、CLの原さんを最後尾に9時40分出発。平らな竹林の中を30分歩くと火男火売神社(ほのおほのめ)(御嶽権現社)に着いた。そこで各自登山の安全祈願をする。ここから本格的な登山道となり道も険しく雪も激しくなった。積雪は2〜3センチメートルとアイゼンを付けるほどではないが、足元は滑りやすいので注意。人数が多い分、雪山登山は列が伸びるためペースを落としゆっくり進む。南平台分岐11時15分着。ここより鶴見岳へコースをとる。山頂に近づくにつれ雪はやみ天氣が回復。しだいに霧氷が多くなった。積雪も10センチ近く、8合目付近で全員アイゼンを装着、途中数人の下山者と出合い、霧氷は

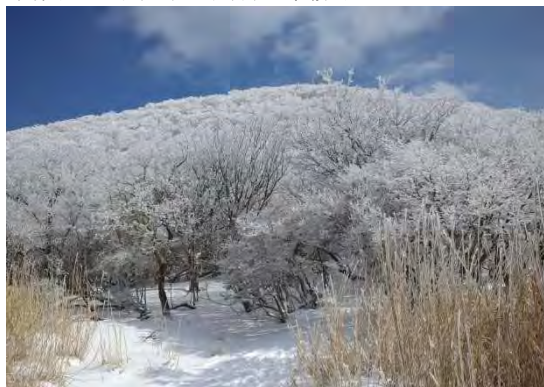


(由布岳をバックに鶴見岳山頂にて)

すばらしかったと聞いて元気がでた。13時鶴見岳(1374.5㍎)山頂着。霧氷に覆われた由布岳をバックに2度目の集合写真。山岳会の旗がなく残念。山頂は風が強く寒かったが、時折青空の見える絶好の登山日になった。眼下に別府湾、志高湖、城島高原が一望、回りは霧氷で真っ白に輝く銀世界、もう少し良かったが予定よりオーバータイムのため、次の目的地城島新道を通り南平台へ向かう。少し下った平地で遅めの昼食を30分とり、14時40分初登頂の

南平台(1216㍎)山頂着。3度目の集合写真。踊り石15時着。登山時に通った南平台分岐15時20分、マイクロバスの待つ火男火売神社(御嶽権現社)登山口に16時25分全員無事下山。心配した天気も持ち直し頂上付近では純白の霧氷に感謝しました。特に今回企画していただいた原さんほか、ご一緒させていただいた皆さんには大変お世話になりました。本当にありがとうございます。

◆参加者 (21人) (男性) 馬場、舩木、高畠、関口、池田(暁)、棕本、竹本(正)、赤瀬、吉村、中村(周)、矢富、小濱、井上、縄手、田代(ビジター)◆(女性) 原、大内、竹本(加)、岡本、大河原、高岡(ビジター)



(鶴見岳の霧氷)



伯耆大山冬山訓練

三度目の挑戦・三鈷峰

北九447 縄手 修



(下山キャンプ場にテント設営)

2月1日(水)と2月4日(土)の2回
会合を持ち共同装備、個人装備、
食料計画の細部打ち合わせを南小
倉市民センターにて実施

場所—鳥取県伯耆大山

目的—冬山登山技術の習得及び
雪上訓練

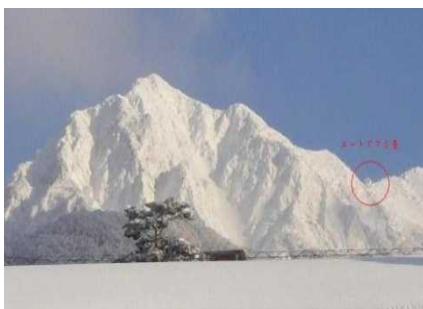
期間—平成24年2月9日(木)～
2月13日(月)の5日間

1日目 2月9日(木)晴れ

3:15小倉駅前高速バス停集合
23:45出発

2日目 2月10日(金)曇り

米子駅7:20発→大山寺着8:25
下山キャンプ場にてテント(3張り)設
営11:00 出発→12:25～13:55



(三鈷峰)

雪上訓練→15:00テント着

板倉Lと高島さんは、元谷小屋
へ我々は元谷にて竹本 SL のもと
滑落停止訓練を実施。

3日目 2月11日(土) 曇りのちホワ
イトアウト

4:00起床→5:30テント発→6:50
下宝珠越取り付→9:05中宝珠越
→9:20アイゼン装着→10:25上
宝珠越→11:45撤退→15:10テ
ント着

西村さんのGPSのおかげで現在
地の確認はできたのですが、視界
が悪く三鈷峰の登頂を断念。

4日目 2月12日(日)曇りのちホワ
イトアウト

4:00起床→5:50夏山登山口発
→7:03～7:20 5合目にてアイ
ゼン装着→8:47弥山山頂→
9:05～9:30頂上避難小屋→夏
山登山道経由10:34五合目→
11:34登山口
テント撤収→入浴後18:10大山
寺発→19:04米子駅前着→



22:30米子駅前発、夜行バスに
て車中泊。

今日は朝からヘリコプターが旋
回していたのですが、地元の人
の話では2名のパーティの滑落
事故2件発生していたとの事です。

弥山山頂では吹雪のためゆっ
くりできず、頂上避難小屋で休憩
を取り、下山を始めました。

途中スノーボードを担いで登
ってくる若者たちと何組も出会
いました。

下山後昼食のため大山館へ行
ったのですが、他のグループの
方から高島さんにビールの差し
入れがあり高島さんの交友の広
さに関心させられました。

食事の後二晩世話になったデン
トを撤収し、風呂へ行き3日間の汗
と疲れを流し、路線バスで米子駅
へ向かいました。

米子駅ではそれぞれにお土産を
買い、路線バスの運転手に教えて
もらった居酒屋で食事をして家路
につきました。

5日目 2月13日(月)

→5:30小倉駅着・解散

冬山訓練の総括

No.13471 板倉 健一

今年の伯耆大山は、今までで最
高の積雪でしたが、事故もなく無事
下山できました。皆さんに感謝して
います。

テント生活の段取りは良かったと
思います。特に食料に関しては、内
容・段取り共申し分ありませんで
した。(7割食料でOK)

今年の冬山は北九州支部にとって、ターニングポイントだったと思います。今までは、全員で行動してきましたが、各人の体力、技量に応じてパーティを編成するという事です。宝珠尾根～三鈷峰のルートは上宝珠越までいかにスーディに登るかが大きな要素です。

今年の場合で考えると3人パーティで三鈷峰に向かうのが適切だと

思います。雪山登山でパーティの基本レベルは、アイゼン装着でわかります。

装着してから外すまで、途中でトラブルなく行動できるパーティを目指しましょう。

次 回 こ そ は 三 鈷 峰 ！

宝珠尾根 つのる想いの

三鈷峰

●参加者(7人)

板倉健一(CL)、高畠拓生、竹本正幸(SL)、縄手修(装備)
西村信子(会計・記録)、竹本加代子(食料)、森本信子(救急)

島根県「大佐スキー教室」

1943年生まれ ―スキー初体験―

No.14498 大 木 康 子

本年2月17日～18日、池田スキー部長による第1回スキー実践教室に参加した。

17日22:00集合。JR 小倉駅北口の「駅亭」で出発前の乾杯をする。

23:00、小倉北口KMMビル前で夜行バスに乗り込む。山田事務局長は博多から乗り込んでいた。ほかのスキー客と交わり満席となった。

2 回トイレ休憩。前のほうから睡眠薬？ がまわってきた。おかげでぐっすり寝込んだ。夜明け前、車窓から目に飛び込んだのは何とすばらしい銀世界！ 今年は例年になく大雪とか。6:00バスは芸北高原「大佐スキー場」に着いた。センターハウスの目の前に広がるワイドなグレンデ。レンタルハウスに行って自分に合う靴を借り、板にガチャッと取り付ける。

準備OK。池田部長の掛け声‘さあ雪に慣れましょう。山田先輩に手ほどきをうける。‘すべてごらん’途端にスッテンコロリン！ 起き上がれない。空を見上げ、もがく・・・どこからとなく先輩が助けに来る。午前中ころびの練習(何回ころぶやら)センターハウスでカツカレーの昼食を済ませ、午後からリフトで登る。私は初心者、やるしかない、ファイト！ リフトから降りられない！係員にリフトを止めてもらう。

受け止め役伊藤支部長の上に次々初心者が転がり込む。支部長もまるでだんご兄弟。皆大笑い。

もがく、山田、竹本加代子両先輩に助けられる。さー大変！ ゴールまで下る作業。‘いいよ、いいよその調子、スピードあげて頑張っ’てと両先輩の掛け声で、ゆっくりゆっくり



ではあったが、どうにかゴールした。やったー！ 感激の涙がボツボツ、1943年生まれの私もスキーが楽しめた。池田部長さんをはじめ、大先輩のおかげです。心から感謝しています。お疲れ様でした。ありがとうございます。会員の皆さん、来年はぜひ参加してください。心優しい先輩がたくさんいます。スキーは楽しいです。来年も行きます。今回は2泊してください。小倉駅20:00着。「駅亭」でスキー教室打ち上げの乾杯をして帰路に着く。

◆参加者(9人)

伊藤、関口、原、山田、馬場、池田(智)、大木、竹本(加)、坂本(勝)

初めてのスキー 来年もまた！

No. 13532 馬場 基介

2月17日～18日、平成23年度に設立されたJAC北九州支

部スキー部の第1回スキーツアー(広島県芸北高原大佐スキー

場)に参加しました。初めてのスキー体験であり、70歳という年齢を考えても、みなさんに迷惑を掛けるのではと悩みましたが、一度は経験したいという気持ちが強く、思い切って申し込みを

しました。今回は、9人の参加になりましたが、初スキーは私と大木さん、2回目は原さんで、ほかの方々は池田部長をはじめ伊藤、関口、山田、坂本の各氏と竹本さん。ともにベテランで心強く感じました。

福岡発22時のツアーバスで、小倉駅23時55分発の夜行バスです。

翌朝6時ごろ到着後～朝食～スキー教室(9時～15時)～16時20分スキー場発～小倉20時～福岡22時30分の行程です。

福岡から乗車の山田氏と合流、指定されたバスの前列に着席しました。ほかのお客様は若い女性グループ、カップル、男女友達グループなど若者中心です。

予定どおり小倉を0時前に出発、0時40分山陽小野田市のドライブイン「みちしお」に到着、50分の食事と休憩タイムです。1時30分出発、途中、雪の中、長門峡、徳佐を通り、3時35分ごろ道の駅シルクウェイ「にちはら」でトイレ休憩、10分後目的地までノンストップです。

5時30分、大佐スキー場到着、一面銀世界です。小雪も舞っていました。曇り時々雪という天気です。運転手さんの話では、このような大雪は初めてとのことでした。

レストハウスに入りレンタルのスキー、スキーシューズ、ストックを借り(レンタル料3,000円、事前にサイズ身長等を連絡しておくこととセットして用意しています)更衣室で準備です。

私は、山登り用のヤッケ、パンツ、防寒帽で滑りましたが、何の支障ありませんでした。

全員そろったところで、朝食までの時間を利用して初滑り?で



(大佐スキー場にて)

す。スキーを装着するのも、雪の上を履いて歩くのも初めて、記念すべき日です。スキー板の長いのに閉口です。平坦地ならともかく、少し勾配がつくと前に進みません。ベテラン組の指導で基本の坂登り、転び方、止め方などを習うが、頭の中と行動は別々、特に止め方は最後までだめでした。

センターハウスの食堂も開いたようなので休憩に入り、温かいキツネうどんを食べながら机上研修。

いよいよスキー教室、ベテラン組がそれぞれ3人の初心者組に付けていただき個別指導です。

初心者用ゲレンデで基本事項を教わった後、緩やかな傾斜をこつこつと登り、ある程度のところから下に向かって滑ります。前方に人のいないのを確認して滑る。姿勢が悪いと転倒です。

転倒は雪の上、痛くありませんが起き上がるのがまた大変です。スキー板が長く思うようにいきません。男性は、腕力で何とかしましたが、女性軍は苦戦です。この登り、下り、転倒を繰り返すこと20回くらい、いくらか様になってきたところ昼食。

午後からは、少しレベルを上げて、リフトを使って400mの初心者コースからの滑りです。リフトに乗るのはまずまずも、降りるのには要領悪く職員さんに迷惑を掛けました。

400m上がってびっくり、余りにも傾斜があり、下れるか不安になりました。度胸を決めて少しずつ滑りやすいところをねらって下りていきました。右回転、左回転をするたびに足が開きはじめる転んでしまいます。

3回ターンをできたのが最高でしたが、この感覚を身に着けることが今後の課題です。最後にもう一度リフトに挑戦して下りてきましたが、徐々に感覚がつかめてきました。

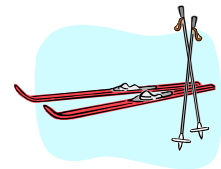
あとは練習を続けることのみです。15時30分過ぎにレンタル品を返し、帰り支度をしました。

16時30分にスキー場を後にしましたが、すぐに眠りに入ったようです。気がついた時には高速道路でした。心身ともに疲れたのでしょうか。

20時前に小倉駅に到着しましたので、出発式をした「駅亭」で簡単な解散式をし、無事故に感謝しました。それにしても最後

まで、自分のスキーをさておいて
ご指導していただいたベテラン
組の皆様には感謝の気持ちで
一杯です。初めてのスキー体験、

記念になる思い出となりました。
スキーをやってみたくと思って
いる会員のみなさま、来年はご
一緒に参加しましょう。



85歳の藤田傳さんが、河頭山と花尾山をガイド

No. 13541 高島 拓生

平成24年1月14日、晴天。伊藤、原、大木、高島の4人は、午前8時45分頃八幡駅に到着。

藤田傳さんの自家用車で出迎えられ、年始のあいさつをしてから、老運転手の車で八幡の皿倉山にある河頭山公園駐車場に着きました。

軽装で登山開始。歴史の人物、木村壺岐守鑑邇頭彰碑や巨岩の石割現物を見て、213.1mの河頭山に着き、花尾山を望む。

下り道に巨岩はまぐり岩に「忠孝」と書かれた碑は、頭山満翁の書を刻す・・・などの話を聞き下山する。

花尾山西登山口に移動、狭い林道の行き止まりに駐車する。

11:30 登山開始。われわれは西登山口からは初めてのコースで楽しみます。藤田ガイドがトップで歩きながら、やぐら台跡、四の丸、三

の丸、二の丸を経て、12:16 花尾山(351m)に到着。城跡の広場より若戸大橋、関門大橋、下関の良好な展望を楽しみました。野外テーブルでおいしい昼食をしながら花尾山について詳しい説明を聞きました。

13:25 下山開始。途中、花尾城跡碑の説明や4m大の岩を日田から運んで、櫻井慶松先生の書を刻字した様子、除幕式の話などを聞き、13:56 下山する。

花尾山を愛する会の委員をされている藤田さんから、花尾城築城800年記念誌に藤田さんのサインを記した本を頂戴したので、大切に拝読させていただきます。そして JR 八幡駅まで4人を送ってもらいました。藤田先輩、有り難うございました。

下山後の余裕時間を小倉城散策、松本清張記念館観覧などして、別

かれがたく夕食を兼ねて、伊藤支部長の叙勲の祝賀会をして散会としました。

◆参加者(5人)

藤田(傳)、伊藤、原、高島、大木

一生山と関わり、 人生を楽しみたい！

私ごとですが、1月15日が高島の傘寿となりました。平成19年2月20日、三高山山小屋に12人が集まり、藤田さんの傘寿の祝賀会を催したことを思い出しました。

自分の姿を藤田さんに重ねあわせて、初めて体力の衰えを実感しました。今日の85歳の藤田さんのように、元気に山歩きができるのかと心配に思いました。永年勤務させてもらい、傘寿を迎えることをうれしく思います。3月末日に退職いたしましたが、今後はボランティア活動の山小屋(三高山)管理、登山林道整備など生涯山との関わりを続けて人生を楽しみたいです。



月例山行 3月25日(日)

急斜面と格闘した竜ヶ鼻

No.14079 内藤 正美

原さんから、今年の干支の山、竜ヶ鼻に行こうと連絡があり、多少やぶがあるとのことで、ヤブゴギ大好きな原さんとフル装備で参加。

毎月の山行にほとんど出席していない身で集合時間に遅れてはまずいといと30分前に到着。すでに竹本

さん、森本さん、太田さん、山田さんがおられる。23人全員が集まり、今日のリーダー板倉さんから諸注意があり、柔軟体操を十分し登山口に向かう。

金辺峠は標高210m、山頂は680.6m、標高差は470mしか

ないが、一気な登りが続く。気持ちの良い青空が広がるが、前々日にかなりの降水があったとのことで多少ぬかるむところもあり急斜面と格闘する。福智山方面から冷たい強い風を受けながら2時間で山頂。

展望台も強風を受けるので見晴らしはないが林の中で昼食。初対面な方も多くおられたが、この時に少し工夫され、うちとけあえるように

なればと感じた。

12時から南に下山。150mあまりの岩だらけな急斜面を下る。先頭の山田さんが歩きよいところを探しながらの下山。岩場を過ぎ一息入れる。すぐに右手にヤブこぎかと思っているとまだまだ南に向かう。447の標点、436.2の三角点も過ぎる。三角点の標石が壊されているのは残念だ。301の手前から植林の中を右手に下る。しばらくして林道に出る。残念ながらヘルメットもナタも出番がなかった。後の西村信子さんがビニール袋を片手にゴミを拾いながら歩いておられた。以前、高畠さんがいつも袋を持っておられたのを思いだし、私もと思いながら実行していない自分が情けない思いがする。



(竜が鼻山頂にて)

2時間半で集合場所に戻る。今まで歩いたコースを確認しながら、低山とはいえ十分な歩きを堪能した。

柿下温泉で汗を流し山口まで帰る。担当された竹本加代子さん御世話になりました。

◆参加者(23人)板倉(CL)、山田(SL)、伊藤、原、西村(信)、馬場、関口、西村(俊)、太田、内藤、原野、赤瀬、竹本(加)、吉村、森本、岡本、倉本、橋爪(久)、安田、橋爪(明)、井上、清家、縄手

いつときも気が抜けない急峻な岩場

北九391 岡本千智子



(竜が鼻)

3月25日、春風の強い晴れた日曜日、旧322号線の金辺峠から登る681mの竜ヶ鼻に登りました。うわさでは聞いていましたが、かなりハードな山行でした。

後からネットで見ると「福岡県無名山301」の中でもスーパー A クラス県下一の絶品の山だという事です。

登りはズルズル滑る急傾斜を手がかりもなく登る場所が何箇所もありました。小休止も平坦な場所はなく、



(展望台標識)

常に傾斜での休憩でした。這いつくばり、ああしながら、こうしながら2時間かけて山頂へ。

もし風がなければ気持ちのいい広々とした山頂で360度の展望です。

ここから展望台迄の道が唯一ホッとした山道で水溜りにはオタマジャクシがすでに泳いでいました。

展望台は切り立った崖上で真下に国道や削り取られた香春岳、牛斬山が見えましたが、不思議な風景でした。

昼食後はすぐに苔の生えた岩場にぶち当たりました。この岩場が今まで経験した事のない、いつときも気が抜けない、一歩間違えたら大けが間違い無しの急な岩場で、かなり時間がかかったような気がした

けど、30分でした。

近場にこんなすごい山があるのかとビックリしました。帰りは25日までとなっていた田川市美術館の「山本作兵衛原画展」に思いがけなく鑑賞することができました。

日本初のユネスコ世界記憶遺産に登録され、公的記録では読み取ることができない当時の生々しさや臨場感があるとありましたが、こんな世界が本当にあったんだと、これまたビックリしました。

最後にこの日の為に竜ヶ鼻を2回も下見してテープをつけたり、より安全な道を探して頂いた関係者の方々に心よりお礼申し上げます。



「英彦山」を世界遺産に！ (添田町長が施政方針で)



福岡県田川郡添田町の寺西明男町長は3月14日町議会本会議の施政方針演説で、英彦山(1200メートル)の世界遺産登録を目指す構想を明らかにした。

筑豊ゆかりの絵師・山本作兵衛の作品群が世界記憶遺産に登録されたことを挙げ、「英彦山に残る文化遺産は人類共有財産の価値を残しており、登録に向けて準備を始めたい」と語った。

英彦山は、耶馬日田英彦山国定公園の一部で、弥彦山(新潟県)、雪彦山(兵庫県)、とともに「日本三

彦山」に数えられる。

山頂には上宮(彦山神宮)の社殿があるほか、中腹には国指定重要文化財の奉幣殿があり、多くの参拝者が訪れる。江戸時代には山伏が修行を積んだことでも知られ、参道脇には今も坊舎の財蔵坊などが残る。冬場に氷結する山頂近くの四王寺滝を始め、雄大な自然が登山者の人気を集めている。町はまず英彦山の国史跡指定を目指す計画。

2012. 3.15 読売新聞筑豊版から抜粋(伊藤久次郎)

一英彦山清掃登山に 山のトイレ協議会も参加一 トイレ建設や山の日制定を呼びかけ

北九州支部が、4月22日(日)に行う英彦山清掃登山に「山のトイレ、環境を考える福岡協議会」も参加することが決まりました。

同協議会は、現在英彦山の山頂付近にトイレを建設する運動を始めており、JAC 北九州支部も運営委員として名を連ね、同委員会に出席しています。

3月21日(水)に雑餉隅の「さざんぴあ博多」で開催された委員会で、当支部の英彦山清掃登山を応援することが話し合われました。

トイレ協議会では、会員全員に通知を出し、22日の参加を呼び掛ける。そして当支部と合同して、山の日制定PRやトイレ協議会が作成したパンフレットなどを観光客や一般登山者に配布し、主旨を呼びかける予定。なお当日の北九州支部会員の参加者は、森林保全巡視員の腕章を持っている人は着装して参加して下さい。多くの参加者を期待しています。 伊藤久次郎

一英彦山清掃登山に参加しよう一

と き: 4月22日(日)

集 合: 午前9時、英彦山別所駐車場

行 程: 別所駐車場から3コースに分かれて、清掃しながら中岳へ。

昼食後、正面登山道を下山予定。

携行品: 弁当、水筒、軍手、ゴミばさみ、ヒモ(ゴミ袋をザックにくくりつけるため)、腕章(森林巡視員のみ)、ゴミ用ビニール袋は、添田町役場から提供予定。

支部では、山頂のゴミ回収のためザイルを1本準備する。

担 当: 高畠拓生(090-4587-0746)

西村信子(0930-33-4618)



本の紹介

◆「深田久彌その山と文学」

一なぜ山に向かったのか一

近藤信行著 平凡社 2940円



久彌の山の文章は美しく力強い。それは読者がたちまち山のあなたへ誘う、いやむしろ拉致さる。数多い山の著作のどれもが再読また三読をさそうだろう。

いったいその魅力は何に由来するのか。「せめて私は山のような人間にならねばならぬ。山のような文章が書けるようにならねばならぬ」「山のような」・・・、その深意は本書にあたってほしい。ついては著者は揚言する。「明治以降の近代登山の歴史の中で、・・・彼の『山の文学』はひとときわ燦然と輝いているのである」 (2012年3月11日・西日本新聞よ

☆☆☆ 報 告 ・ お 知 ら せ な ど ☆☆☆

会 務 報 告

平成24年3月定例委員会報告

日 時: 平成24年3月7日(水曜日)

場 所: 小倉商工会館3F会議室

出 席: 伊藤、関口、板倉、山田、江頭、原、馬場、
高畠、藤田、中岡、池田

欠 席: 日向、浜松

議 題

- 1、2月7日(火)開催の臨時委員会にて、公益法人化に伴う支部規約(案)を討議の結果、一部修正の上支部規約を作成し、期日内に本部に送付した。

(山田)

2、会員の異動と会費の納付状況

異動一本部会員83(+1)、支部会員60(-1)

会友4 合計147人

会費一支部会員5人は未入金。 (馬場)

3、山行・行事報告

1月21日(土) 皿倉山での園川講師の講習会(山岳技術専科)10人参加 (原)

1月24日(火) 鶴見岳登山 21人参加(貸切バスを利用) (原)

1月24日(火)「山のトイレ協議会」の新年会「博多駅前」、伊藤、山田が参加 (山田)

2月12日(日) 四国支部設立総会(伊藤支部長が出席) (伊藤)

2月 9日(木)～13日(月) 大山での冬山訓練 積雪が異常に多かった(7人) (板倉)

2月17日(金)～18日(土) 初心者スキークラス「大佐スキー場」(9人) (池田)

2月21日(火)「山のトイレ協議会」の運営委員会に伊藤、山田が参加 (山田)

3月 4日(日)「海外登山・遭難対策研究会」(福岡県山岳連盟主催)に日向、原、関口、山田の4人が出席した。 (関口)

4、山行・行事計画

4月 1日(日) 皿倉山での講習会(園川講師による山岳技術専科)

4月4日(水) 臨時委員会(4月28日の通常総会に向けて)

4月15日(日) 平尾台での岩登り訓練

4月22日(日) 英彦山での清掃登山

4月28日(土) 北九州支部の第13回通常総会(ホテルニュータガワ)

5、新年度の役員人事について

4月4日の臨時委員会にて、各役員の担当を決めて、総会に諮る事とする。

6、支部報の編集方法について

従来は、伊藤支部長に依存していたが、新年度よりは編集委員(伊藤、関口、山田、竹本)の合議により、発行の事とする。

7、新年度よりの園川講師の講義テーマについて来年度

4回の講習のテーマを当方より提案する事となり、時期とテーマを山行委員会にて検討願う事とした

8、その他

①. 現在、当支部員が21人加入している「スポーツ安全保険」が3月末の期間満了に伴い、この際保険の内容等を見直す事とした。

(代理:山田)

②. 当支部に顧問制度創設の件

4月4日の臨時委員会で検討する。ここで承認されたなら、4月28日の総会で諮る事となる。

(伊藤)

③. 故松本徭夫先生の納骨式の件

4月8日、九重山法華院温泉の五輪塔で、松本先生(元、日本山岳会福岡支部長)の納骨式が行われる。 (伊藤)

④. 山岳ガイドの山下健夫氏(北九州市小倉南区在住)が3月25日～6月4日まで3回目のエベレストに挑戦する。

支援募金の依頼がある。 (関口)

(記載者:山田)

2012年度・山岳技術専科



第1回 テーマ

「山地における一般的な救助技術(含処置)」

講師: JAC No.5306 園川 陽造

(日本体育協会公認上級コーチ及び山岳マスター)

日時: 5月12日(土) 午前9時～13時

場所: 皿倉山ビジターセンターNPO

自然愛護会研修室及び国見岩付近

集合: 午前9時、帆柱ケーブル山麓駅駐車場

行程: 山頂・国見岩付近まで登山、途中技術講習。

研修室で実技のまとめや質疑応答(昼食)
など行います。

申込み: 竹本正幸 TEL・FAX(0930-28-9611)

締め切り: 5月5日(土)(1週間前)

第2回 テーマ

「スタンディング アックス・ビレイを含むロープワーク」

日時: 7月7日(土) 午前9時～13時

第3回 テーマ

「シルバコンパスの活用」

日時: 8月4日(土) 午後9時～13時

第4回 テーマ

「岩場における救助技術」

日時: 9月8日(土) 午後9時～13時

- 講師、場所、集合時間、行程は、
第1回に同じです
- 申し込み先: 竹本正幸
- 締め切り: 1週間前
- 雨天でも、基本的には決行の予定
- 特に持参するものがあればその都度連絡します

2011年度の参加状況

1. 「1回:8人 2回:11人 3回:11人 4回:14人
5回:10人 6回:10人」 (4/1 含む)
2. 女性専科: 2回、 25人
3. 男女混合専科: 4回、 39人
4. 参加者: 20名
5. 延人員: 64人/6回 (10.6人/回)

小倉サロンで映画鑑賞

◆2月22日「カラコルム」の感想

「京大の熱意に圧倒された」 (関口)

昨夜のサロンで貴重な映像を見せていただきありがとうございました。

文化財として価値の高いバミヤンの石窟は、狂信的なタリバンの砲撃により破壊され現在では見る事ができません。当時アフガンはまだ王政の頃で治安もよく、奥地まで入れたものと思います。日本の敗戦からわずか10年しかたっていない時に、あれだけの探検隊を組織した京都大学のフィールド・ワークにかける熱意は、大興安嶺探検などのDNAが連綿として引き継がれている証と思われる。次回の上映を楽しみにしています。

「来月のサロンにも出席したい」 (山田)

22日のサロンは、初めての企画でしたが、大変良かったです。

そして、来月のサロンにも出席するとの声が数名から上がっていました。新しい企画には、矢張り関心を寄せているのですね。チョッと安心しました。この輪を、更に広げたいと思っています。

◆3月28日「花嫁の峰チョコリザ」の感想

「撮影の苦勞に感心した」 (伊藤久)

今から半世紀あまり前の1958年、京都大学学士山岳会チョコリザ遠征隊(桑原武夫隊長)が、カラコルム山脈チョコリザ峰を大学単独としては世界初の7000m峰初登頂を果たした。それとともに、高所フィールドにおける総合的学術調査も実施している。

この時代、記録映画といえば16ミリフィルムがほとんどであった。それが、映画「カラコルム」と「花嫁の峰チョコリザ」では、35ミリフィルムが使用されており、総天然色で画質もよい。また、500ミリの望遠レンズを使って登頂を撮影している場面があるが、カメラは電池ではなくゼンマイ式で重さは3キロもあり、また、ファインダーもなく、双眼鏡をカメラにくくりつけて撮影したそうである。今では信じられないほどで、よくまあ撮ったものだと感じた。

◆なお、サロンでは今後、映画や山の記録ビデオ、そして山の体験談などを予定しております。どうぞ気軽にお出でください。会場の準備がありますので、できるだけ事前に申し込みをしてください。

山行計画のご案内

5月の山行

1. 英彦山山開き

と き 5月26日(土)～27日(日)
ところ 英彦山
行 程 26日(土)前夜祭
27日(日)山頂で山開き神事
担 当 日向祥剛(093-592-0275)
高島拓生(0948-53-1740)

6月の山行

2. 針ノ木「慎太郎祭」

と き 6月1日(金)～6月4日(月)
目的地 雨飾山・針ノ木雪渓
(第55回針ノ木岳慎太郎祭に参加)
費用概算 60,000円
(福岡～松本間は往復FDAの早割利用)
申込み 関口興洋 TEL/FAX(093-382-6436)
携帯(090-8919-6436)
締め切り 4月16日(早割申込みのため)

3. 九重・黒岩山(1503[㍑])～ 上泉水山～下泉水山縦走

と き 6月12日8(火)
集 合 午前9時30分、長者原駐車場
(分乗して牧ノ戸に移動。状況によってバス・タクシーを利用)
行 程 長者原10:00～牧ノ戸～黒岩～上泉水山～下泉水山～長者原15:00頃
(下山後入浴。牧ノ戸車両回収)
申込み 中岡 邦男
(TEL 090-4478-7707)
締め切り 6月10日(日)

7月の山行

4. 化石採掘体験と

秋吉台最高峰「龍護峰～西の西山」登山

と き 7月22日(日)
ところ 山口県美弥市大嶺町
美耶氏歴史民俗資料館および美弥市化石採集場・秋吉台最高峰「龍護峰～西の西山」
集 合 第一集合:マイカーは、午前7時30分下関火の山ロープウェー駐車場
JRの人は、午前7時新下関駅
(他の会員が迎えに行きます)
第二集合:美弥市道の駅「きくがわ」
(高速小月ICで下りると便利)
行 程 下関→美弥市歴史民俗資料館9:00(化石採集許可申込み)→美弥市化石採集場(化石採集)→正午(昼食)→「龍護峰～西の西山」登山
装 備 登山のできる服装、弁当、化石採掘道具(ハンマー、タガネ、防塵メガネ、手袋、ヘルメット、虫眼鏡など)
申込み 伊藤久次郎
(TEL&FAX 0947-42-2772 または 090-8837-2629 またはEメール)まで
締め切り 7月10日まで

5. 高山植物の宝庫・白山

と き 7月28日(土)～31日(火)
ところ 加賀の白山
行 程 27日(金) 新門司港16時50分
28日(土) 大阪南港～JR大阪～大聖寺～金沢～市ノ瀬
29日(日) 市ノ瀬～観光新道～室堂
30日(月) 室堂～御前峰大汝峰～南竜山荘
31日(火) 南竜山荘～砂防新道～市ノ瀬～金沢～新大阪～小倉～博多
費用概算 60,000円
申込み 原 広美 TEL 083-245-5490
締め切り 5月25日



◆◆◆ サ ロ ン ル ーム 計 画 ◆◆◆

小倉サロン

(毎月第4水曜日)

平成24年

◎5月のサロン 23日(水) 午後6時

体験談「ヒマラヤ ナンダ・デヴィ東峰(7,434 ㍎)」

1978年遠征。板倉健一会員(当時29歳)

◎6月のサロン 27日(水) 午後6時30分から
(サロンのみ)

◎7月のサロン 25日(水) 午後6時

ビデオ講演「穂高からマナスルへ、そして南極へ」
元南極越冬隊長 日本山岳会名誉会員 村山
雅美2005年4月、日本山岳会創立100周年記念講
演から

企画・制作 日本山岳会 資料映像委員会

◎8月のサロン 22日(水) 午後6時30分
(サロンのみ)

◎9月のサロン 26日(水) 午後6時から

体験談「ネムルン・ヒマール(ネムジュン 7,139 ㍎)」
1984年、1988年遠征。江頭精一会員(当時28歳)◎10月のサロン 24日(水)午後6時30分
(サロンのみ)

◎11月のサロン 28日(水) 午後6時から

北九州支部思い出の山行ビデオ

プロジェクト Q「12人の挑戦者たち・金峰山と瑞
牆山」出演者:坂本千佐子、三木靖子、八木國子、塩
屋 薫、西村一利、横山洋子、高島拓生、馬
場基介、西村信子、関口興洋、原 広美、伊
藤久次郎

◎12月のサロン 忘年の集いのため、お休み

平成25年

◎25年1月のサロン 23日(水) 午後6時

ビデオ講演「女が山に登るとき、花への思いを馳
せて」

元日本山岳会 名誉会員 坂倉登喜子

2004年10月、日本山岳会創立100周年記講
演から企画・制作 日本山岳会 資料映像委員会

◎2月のサロン 27日(水)午後6時30分(サロンのみ)

◎3月のサロン 27日(水) 午後6時

ビデオ:8ミリフィルム記録映画「ヒマラヤ・トレッキ
ング」1976年 伊藤Q制作(当時36歳)。音声、カラー
36年前のルクラ空港やナムチェ村が見もの。

●場所:小倉北区魚町「コール天」

●参加申込:事務局・山田武史(090-6422-5662)

博多サロン

(3カ月に1回第1木曜日実施)

◎24年5月のサロン 3日(木)

◎8月のサロン 2日(木)

◎11月のサロン 1日(木)

◎25年2月のサロン 7日(木)

●場所:福岡市博多区吉塚本町13-55

サンヒルズホテル内 居酒屋「呑多来(どんたく)」
092-631-3331

JR吉塚駅から徒歩3分

●参加申込:小林富雄(092-681-4673)まで

編集後記

◎4月1日から日本山岳会は社団法人から公益社団
法人に生まれ変わりました。北九州支部の支部報もこ
れを契機に編集人が若返りすることになりました。そ
の編集人は、新進気鋭の若者、竹本正幸会員です。
奥様とも会員で、よくお二人で岩登りをされるそうです。
今回は慣れない編集の初仕事ですが、初めてにしち
ゃ〜よくできております。当分サポートしながらの編集
作業となりますが、以後よろしくお願いいたします。

(伊藤Q)

◎支部報は、伊藤さん、関口さん、山田さんのご指導
で何とか出来上がりました。間もなく初期高齢者です
がよろしくお願いいたします。

山の原稿は、事務局長山田武史または竹本正幸へ。
メール又はFAXをお願いします。

Eメール(原稿写真も含む)は竹本宛。

(次の原稿締め切りは6月25日まで)

アドレス:takemoto.masayuki@white.plala.or.jp

